



YouTube にて配信中

共催：第126回日本小児精神神経学会【特別企画】

The 126th Meeting of Japanese Society of Pediatric Psychiatry and Neurology

いわてこどもケアセンター 市民公開講座 「にじいろ子育て」

と合理的配慮

～子どもの個性を大切にする育みとこれからの発達障害支援～

講師 ほんだ ひでお 本田 秀夫 先生

(信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授)

発達障害の早期発見、早期介入から成人期の支援まで、あらゆるライフステージにわたる臨床経験をもつ発達障害の専門家。知的障害を伴わない自閉症が稀ならず存在することを世界で初めて実証した疫学調査は国際的にも評価を受けている。現在は、大学を拠点として児童青年精神科医の育成と臨床研究体制の準備に取り組んでいる。



司会：八木 淳子 (岩手医科大学)

2021年10月17日(日)に行われました市民公開講座の様様をYouTubeにて配信しています。ぜひご覧ください。

- 配信期間・・・10月20日(水)よりおよそ1カ月間(これ以降についてはお問い合わせください。)
- 視聴方法・・・下記URLまたはQRコードよりご覧いただけます。(YouTubeにて学会名やいわてこどもケアセンター 市民公開講座などをご入力いただいても検索可能です。)

URL: <https://youtu.be/3A-v6z2RboU>



<お問い合わせ> 岩手医科大学 いわてこどもケアセンター
☎019-651-5110 (ダイヤルイン 5550)

「にじいろ子育て」と合理的配慮
ー子どもの個性を大切にする育みとこれからの発達障害支援ー

信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室
附属病院子どものこころ診療部
本田秀夫

近年、知的障害や発達障害（以下、合わせて「発達障害」）のある子どもたちへの支援が進んできました。保育園・幼稚園・学校の標準的なカリキュラムは、発達障害のある子どもには馴染みにくい部分が多いため、個別のニーズに合わせた配慮（合理的配慮）が必要です。いまは、「障害者差別解消法」によって、すべての園と学校に合理的配慮の義務（公立）または努力義務（私立）が課せられています。しかし、合理的配慮が十分に行き渡っているとはまだ言えません。現在も、発達障害のある子どもたちでは不登園・不登校やいじめ被害などの問題が生じる割合が高いことが指摘されています。

一方、わが子が標準のカリキュラムに合わないと感じた時、多くの保護者が焦ってわが子を無理に頑張らせようとします。このことが、虐待をはじめとする不適切な養育（マルトリートメント）につながることもあります。

この講演では、視点を変えて標準的なカリキュラムのあり方を見直してみingことを提案します。現在の発達心理学では、子どもの発達が多様性に富んでいることが強調されています。個々の子どもでも発達のペースは異なりますし、一人の子どもの中でも言葉、運動、対人関係、遊びなどの領域ごとに発達のペースの凸凹があるのです。したがって、標準的なカリキュラムを狭く硬いものにすると、合わない子どもが増えます。逆に、標準的なカリキュラムがもっと広く柔軟なものになれば、合わない子どもが減り、障害があっても意欲的に楽しく参加できます。子どもの個性に合わせた多様なスタイルの子育て、いわば「にじいろ子育て」が、多くの家庭、園、学校で標準となれば、発達障害の子どもだけでなくすべての子どもにとって社会参加がもっと充実したものとなるでしょう。

講演では、多様な子育てのヒントを提供するために私どもが開発し、無料公開しているスマートフォン用アプリ「TOIRO」についてもご紹介します。

（第126回日本小児精神神経学会 プログラム・抄録集より転載）

本田 秀夫（ほんだ ひでお）

1988年、東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部附属病院、国立精神・神経センター武蔵病院、横浜市総合リハビリテーションセンター、横浜市西部地域療育センター長、山梨県立こころの発達総合支援センター所長を経て、2014年より信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長。2018年より信州大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 兼 附属病院子どものこころ診療部長